

藤井大輔 3月8日（水） 予算特別委員会 質問予定

問1 官民連携・規制緩和の推進について

（１）これまでの富山県の包括連携協定の推移（企業数、業種、県内企業比率など）や具体的な事業にまで至った数について、どのように把握しているのか。

（２）今年度推進デスクを設置以来、民間からどのような規制緩和の要望があり、その中で実際に検討に入ったものや緩和措置をとったものはあるのか。

（３）新年度、官民連携・規制緩和推進本部を設置し組織の強化が行われるが、具体的な人員体制や期待する成果をどう考えているのか。
県外民間企業の実証実験を誘致するデジボックスとやまの運営と一体化する方が良いのではないか。

問2 意欲ある起業家への支援について

（１）R4年度のTスタートアップ事業の成果とR5年度の具体的な事業内容について問う。

（２）富山県が目指すスタートアップエコシステムの姿が見えないが、構築する具体的なイメージはどのようなものなのか。その際、TONIO や富山県中小企業支援ネットワーク会議など、既存の支援システムとは何が異なるのか。

（３）スタートアップと同時に SSGC（造語／Sustainable Small Good Company:小さくてもキラリと光る・自分の得意を活かした起業家）を育成するエコシステムを構築すべきではないか。SCOP に入っている創業期の企業も、スタートアップよりも SSGC が多いように感じている。

問3 富山県のブランディング・PR 施策について

（１）これまでも富山県は農産品やお土産品をはじめとしたブランディング・PR に力を入れてきたところだが、これまでの取組みの成果と課題をどう整理しており、それを踏まえて、新年度のブランディング・PR は何が変わるのか。

（２）「寿司と言えば、富山」から広がる波及効果、経済効果をどう見立てているのか。鮎

や日本酒等の特定事業者だけでなく、県民に幅広く効果があると期待しているが、県民へのアカウンタビリティ（説明責任）についてどのように考えているのか。

（３）「しあわせデザイン」を富山県としてどう支援していくのか、所見を問う。

成長戦略会議の委員である高木新平氏は、この団体を通じて「地域活性において日本でもスターになれる素質のある人物を掘り起こしたい」とのこと。一方で自治体に関与する際は、利益相反取引等の注意も必要である。

問４ 教育の新たな機会について

（１）隠岐島前高校の取組みをモデルにした「地域みらい留学」の県立高校での導入可能性について、実現に向けてクリアすべき課題について問う。

県立高校の魅力化には「地域・社会に開かれつながる魅力ある高校づくり」の視点が欠かせない。「地域みらい留学」は現在、32 道県 92 校にまで広がった。教育警務委員会での視察も含めこの１年問題提起をしてきた。

（２）薬剤師の不足を解消するためには、大学生や若い世代に対し薬剤師の仕事の魅力や役割が伝わるようなキャリア教育の充実が重要だと考えるが、県としてどのような取組みを行うのか。薬剤師の地域偏在が課題となっており、富山県では特に公的病院での薬剤師不足が深刻化していると聞いている。

（３）富山県立大学看護学部の初の卒業生が３月に誕生するが、認知症ケアに効果があると言われているユマニチュードや工学的視点を取り入れた特色ある教育を受けた卒業生が、県内医療機関等で活躍し続けるために、卒業生への継続的な支援（アルumni活動）が必要と考えるが、どのように取り組むのか。

問５ まちづくりの新たな機会について

（１）認知症になっても安心して暮らせる社会を実現するため、昨年 11 月議会で採択された「認知症の行方不明者の命と安全を守るため、県内全域で差が生じないよう取組みを求める請願」に基づき、市町村との協議を進めてもらいたいと考えるが、現状をどう把握し、具体的にどのように取り組むのか。

（２）債務負担行為の設定を見送った富山県武道館は、もともとの「武道館機能を有する多目的施設」のコンセプトを転換するということによいか。また、「多目的施設」という部分の基となった全天候型スタジアムアリーナ構想について、改めて検討する可能性はあるの

か。過去に県がアリーナ構想を断念した経緯を踏まえて、所見を問う。

（３）地域の歴史文化を大切にした地域密着型のまちづくりも大切だが、例えばスポーツやエンタテインメントを軸に、県外・海外の民間企業から大型の投資を呼び込むような尖ったエリア開発の可能性について、所見を問う。

北海道ボールパーク F ビレッジは、プロ野球の新球場を誘致し、ボールパークとスポーツを核にした官民連携によるまちづくりの好事例であり参考になる。

（４）富山県観光においてラグジュアリーマーケットに取り組むうえで、どんな観光資源や観光コンテンツが不足しているのか、そのためにどのような対策を行うのか、問う。

魅力度は遜色ないと考えるが、高付加価値×高単価なマーケットへのチャレンジが、三重県や奈良県などの他県と比べて遅れていると感じる。

以上 16 問予定